

プレミアグループ（証券コード：7199） 一過性費用計上も順調に収益を拡大

GIR View

2025 年 3 月期業績の営業利益は、子会社で発生したシステム障害の影響により約 13 億円の損失が生じ、前期比 10.0%増の 6,815 百万円にとどまった。かかるシステム障害の一時費用の影響がなければ、同期営業利益は、少なくとも前期比 31%増の 81 億円と大幅な伸びであった。

一時的な減益要因の影響を除く業績伸長の背景は、予てより積極的に推し進めてきた同社独自の商品開発とプロモーションによるカープレミアクラブ会員数の大幅な増加にある。

2026 年 3 月期業績は、営業収益で同 15.4%増の 420 億円、税引前利益で同 31.4%増の 90 億円となる見通し。システム障害の見込み影響額約 12 億円を考慮すれば、税引前利益で初の 100 億円台となる実力。システム障害の影響がほぼなくなる翌 2027 年 3 月期には確実に達成することになるだろう。

注目すべきは、カープレミアクラブを基盤とするオートモビリティサービス事業の業績の伸び。営業収益で 19.6%、営業利益で 55.0%の伸びは、全セグメント中最大であるだけでなく、既存事業の収益拡大に大きく貢献している。

一方、今後の成長のカギは、DX 投資が握ると言っても過言ではない。今回のシステム障害への対策の一環として、人事を刷新し、外部アドバイザーを登用。今後、同社の DX 戦略における課題がより明確となり、その上でリスクマネジメント力の強化だけでなく、未来社会への粒度が高くなることにより、さらなる積極的な DX 分野への成長投資に拍車のかかる可能性がある。正に、「雨降って地固まる」とはこのこと。約 1 年後に発表予定の、新中期経営計画が楽しみだ。同社は、「デジタルトランスフォーメーション銘柄（DX 銘柄）2025」（以下「DX 銘柄」）に選定されたが、来る WEB3.0 の時代に向けて同社の DX 戦略がどれだけ具体的になっているか目が離せない。

KEY STATISTICS



主要株価指数

直近株価 (2025/06/20)	¥2,094.00
52 週高値・安値	¥2,668.00/¥1,570.00
発行済株数	40,540,170 株
時価総額	796.00 億円
PER	13.04 倍
PSR	1.90 倍
配当（配当利回り）	¥40.00 (1.9 %)

Sector

セクター	その他金融
------	-------

財務指標 (2026/03 期予想)

営業収益	42,000 百万円
------	------------

Management

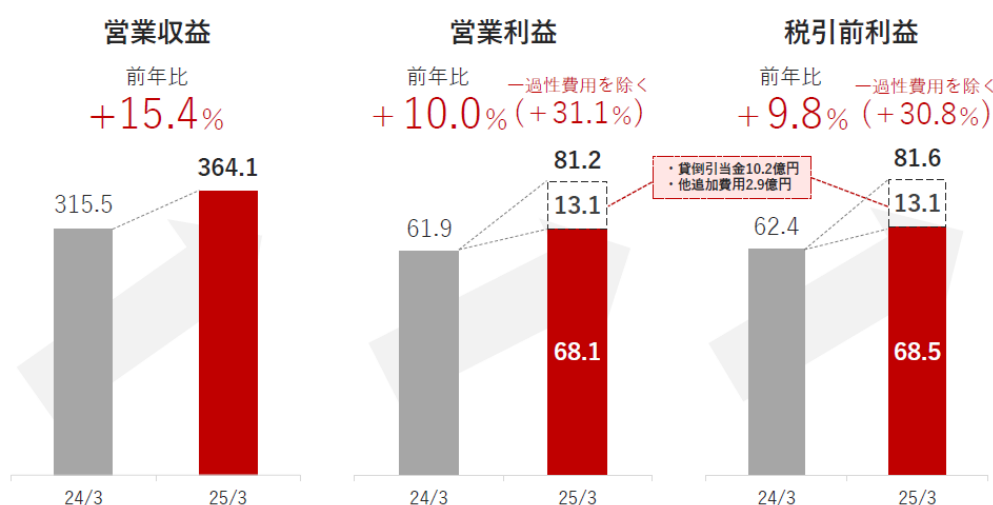
President	柴田 洋一
URL	https://www.premium-group.co.jp/

総括

2025 年 3 月期 業績

2025 年 3 月期業績は、営業収益で前期比 15.4%増の 36,409 百万円と大きく成長した。一方で営業利益は、子会社におけるシステム障害に伴う一時費用約 13 億円の発生に加え、第 4 四半期の長期プライムレート上昇に対する、同社金利等への転嫁にタイムラグが発生し、その伸びは前期比 10.0%増の 6,815 百万円にとどまった。かかるシステム障害の一時費用の影響がなければ、同期営業利益は前期比の 31%増の 81 億円の大幅な伸びとなっていた。税引前利益も同様に前期比 9.8%増にとどまったが、同額の一時費用の計上がなければ 30.8%の大幅増益であった。

(グラフ単位：億円)



出所：会社資料「2025 年 3 月期 通期決算説明資料」

一時的な影響を除く業績伸長の背景は、予てより積極的に推し進めてきた同社独自の商品開発とプロモーションによるカープレミアクラブの会員数増加にある。カープレミアクラブ事業の伸長に後押しされ、将来収益も順調な積み増しが適い、足元もさらに拡大を続けている。

2025 年 3 月期 連結業績										
(百万円)	Q1		Q2		Q3		Q4		通期	
営業収益	8,674	19.9%	9,418	20.4%	9,337	17.9%	8,980	4.8%	36,409	15.4%
営業利益	1,823	33.6%	2,227	59.3%	1,959	19.1%	806	-54.9%	6,815	10.0%
税引前利益	1,876	33.2%	2,200	55.4%	1,972	20.9%	803	-55.0%	6,851	9.8%
当期利益	1,276	18.7%	1,496	50.4%	1,340	17.3%	536	-61.9%	4,648	0.7%

出所：会社有価証券報告書を基に Global IR, Inc.作成

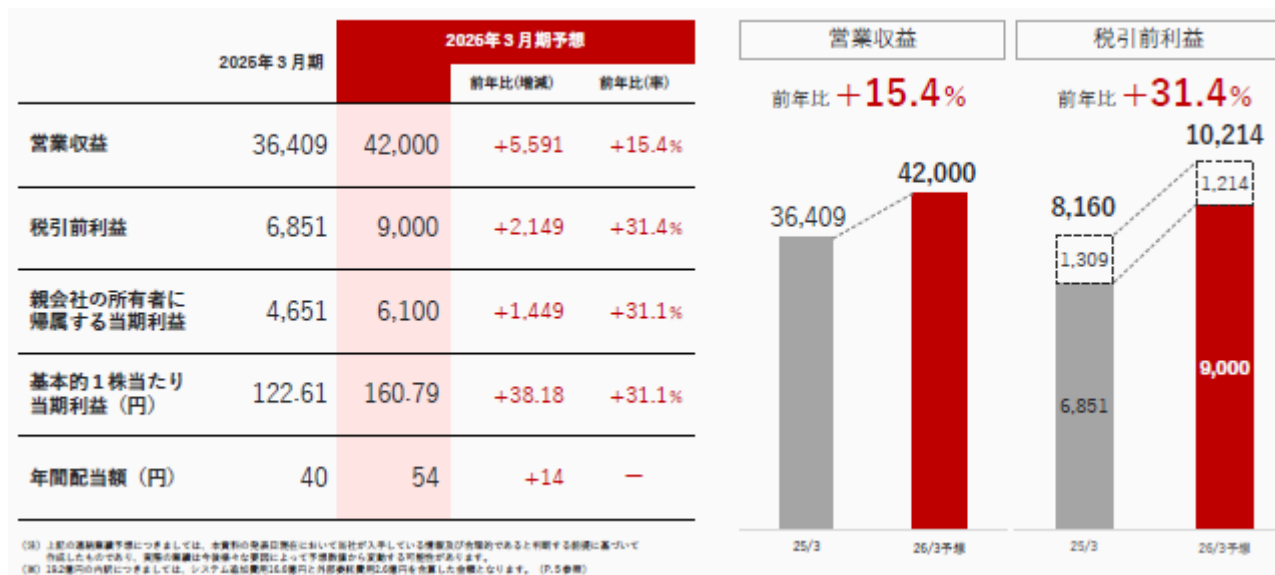
2025 年 3 月期 ファイナンス事業セグメント業績										
(百万円)	Q1		Q2		Q3		Q4		通期	
営業収益	4,812	19.3%	5,433	23.8%	5,219	17.9%	4,687	-14.3%	20,151	13.1%
営業利益	1,220	19.4%	1,800	63.5%	1,315	13.2%	235	-83.4%	4,570	-2.7%

出所：会社有価証券報告書を基に Global IR, Inc.作成



2026年3月期 予想

2026年3月期業績は、営業収益で同15.4%増の420億円、税引前利益で同31.4%増の90億円となる見通し。システム障害の影響については、約12億円を見込む。これがなければ税引前利益で初の100億円台となるものであるが、これはシステム障害の影響がほぼなくなる翌2027年3月期に達成する確度が高い。



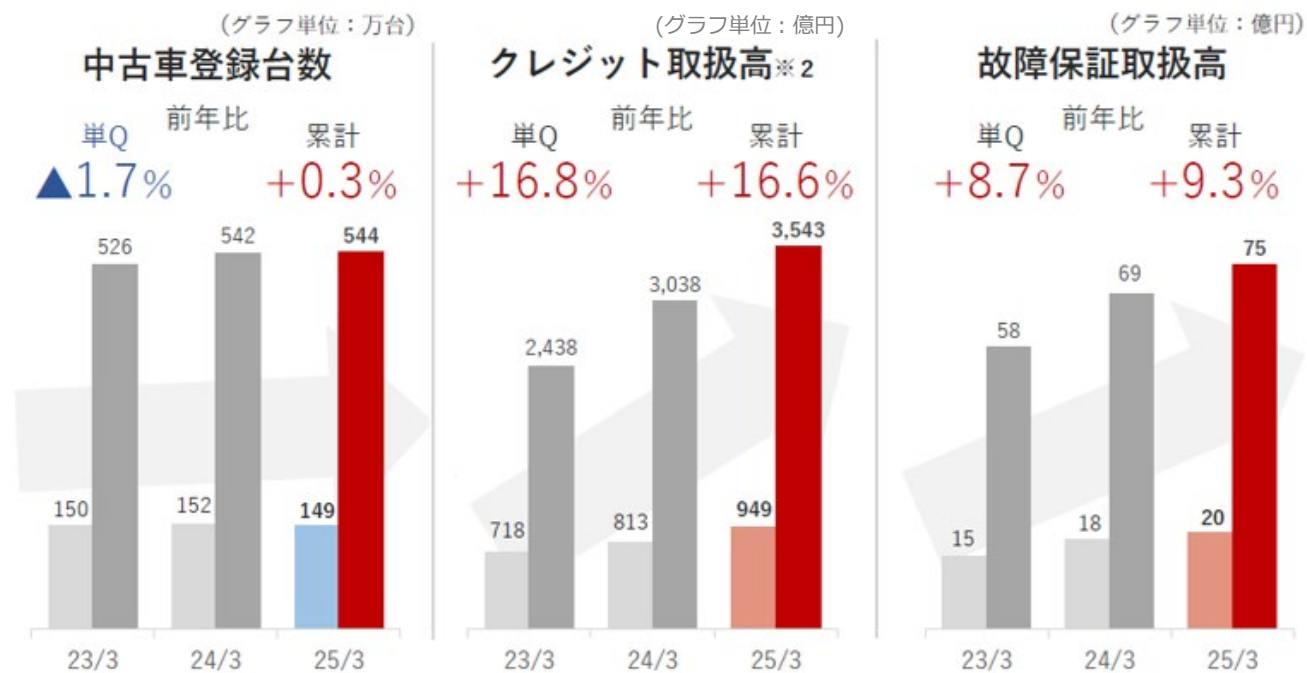
出所：会社資料「2025年3月期 通期決算説明資料」

システム障害について、同社子会社ファイナンス会社のシステム障害による税引前利益への影響額は2025年3月期が約13億、今期2026年3月期が約12億円であるが、これらのシステム障害に伴う追加費用は、これ以上発生することはない。主な費用は、2025年3月期が貸倒引当金で、2026年3月期はシステムの保守を強化するための費用。また、貸倒引当金については、その大半について回収可能と見ている。尚、システム障害の詳細については、同社のDX戦略とともに別の機会にレポートで触れたい。



決算のポイント

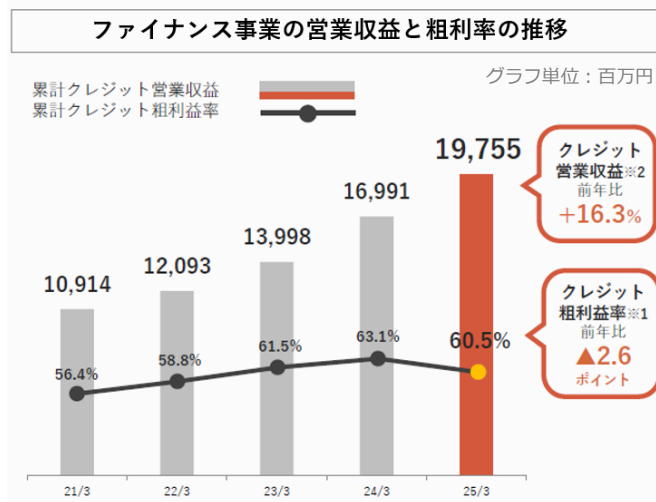
注目すべきは、同社のファイナンスや故障保証の足元の取扱高の高い伸びである。2025 年 3 月期第 4 四半期の日本の中古車登録台数の伸びが前年同期比で 1.7%の減少であったにもかかわらず、同社のクレジット取扱高は前同比 16.8%増、故障保証取扱高は同 8.7%増と堅調。何れも、満を持して市場投入したカープレミアブランド急成長が背景にある。



出所：会社資料「2025 年 3 月期 通期決算説明資料」

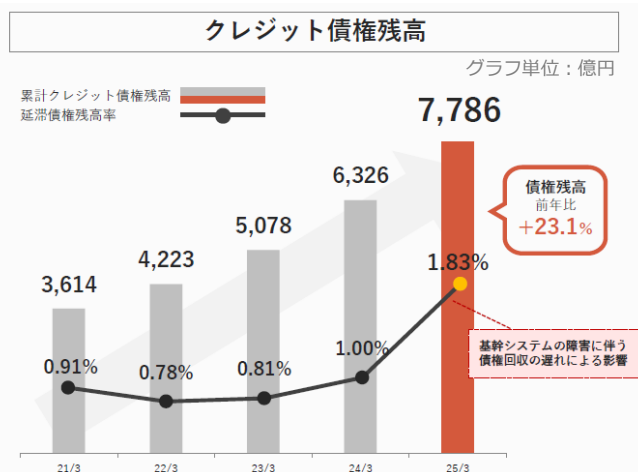
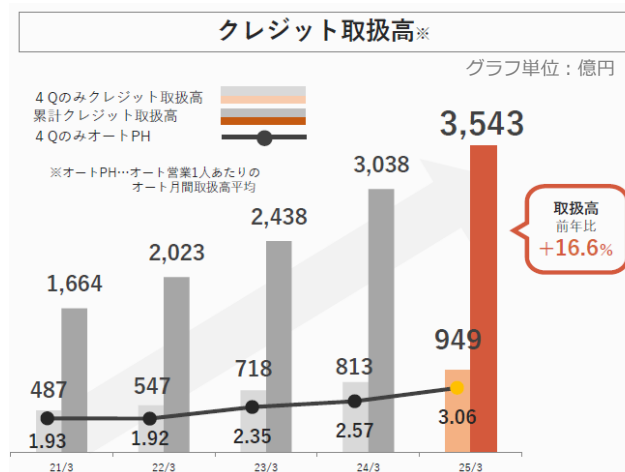
ファイナンス事業

ファイナンス事業セグメントの営業利益は前期比2.7%減の4,570百万円となった。第3四半期までは堅調な増益を維持していたが、システム障害による一時費用の影響が大きかったほか、第4四半期に長期プライムレートが1.85%から2.20%に上昇したことにより金利等への転嫁にタイムラグが発生し、第4四半期の粗利率が前年同期の63.1%から60.5%に減少したことも通期業績に影響した。しかし、システム障害の影響を除くと決算期末の金利上昇の影響があったとしても、営業利益で24%増と堅調さが伺える内容である。



出所：会社資料「2025年3月期 通期決算説明資料」

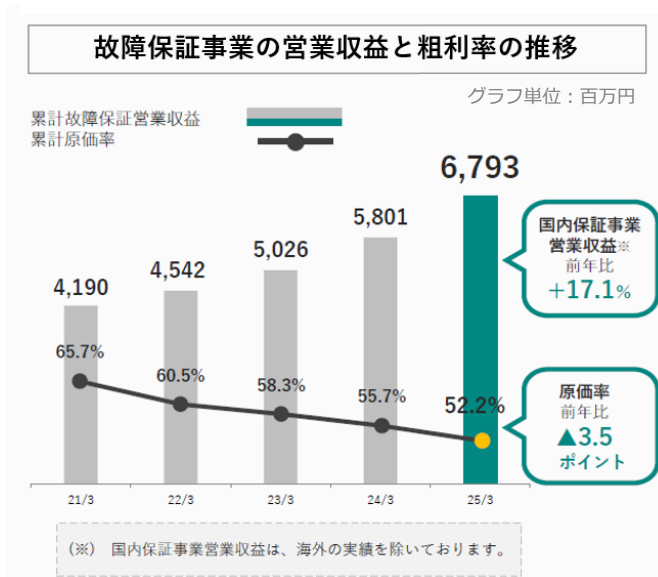
2025年3月期のファイナンス事業におけるクレジット取扱残高は、カープレミアディーラーの伸長により、前期比16.6増の3,543億と、市場が新車、中古車ともにほぼ横ばいという環境の中、大幅に伸長した。これにより、将来の収益となるクレジット債権残高も、前期比23.1%増の7,786億円と過去最高を更新した。延滞債権残高率は1.83%と上昇しているものの、システム障害による一時的な影響であり、貸倒引当金の戻入が予定されていることから、2026年3月期には回復するものと期待できる。



出所：会社資料「2025年3月期 通期決算説明資料」

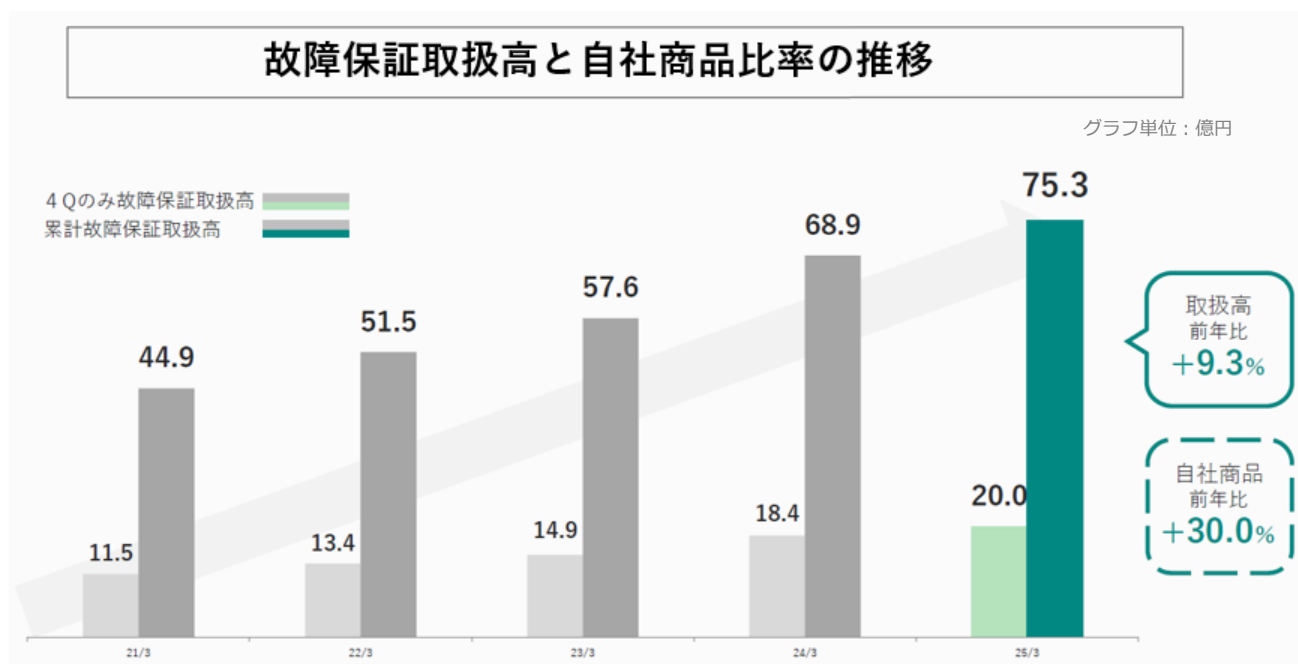
故障保証事業

故障保証事業セグメントの業績は、営業収益で前期比 16.6%増の 6,986 百万円、営業利益で同 44.9%増の 1,122 百万円となった。利益率の高い自社商品の伸長により、原価率が前期の 55.7%から当期は 52.2%に大きく改善しており、これがそのまま利益に貢献した格好。



出所：会社資料「2025 年 3 月期 通期決算説明資料」

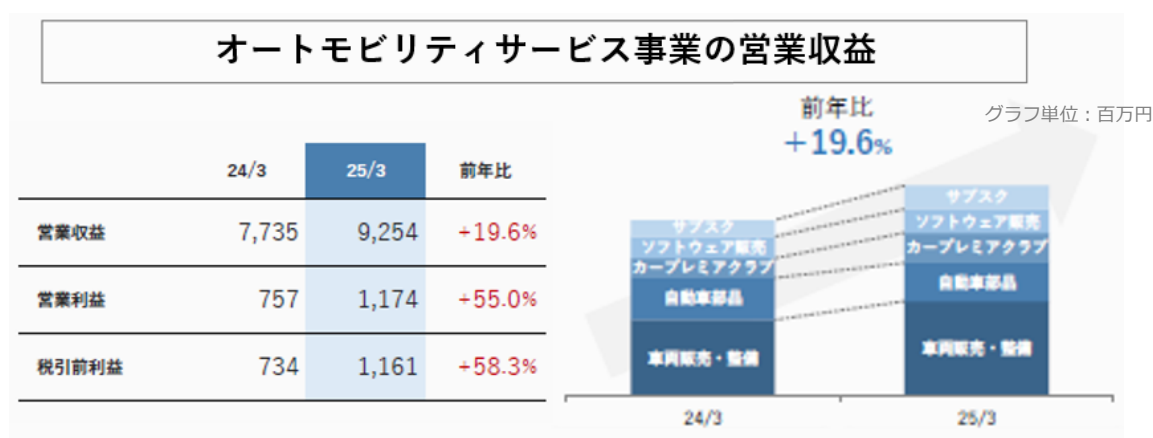
2025 年 3 月期の故障保証事業における故障保証取扱高は、前期比 9.3%増となった。これまでの同事業の伸びから鈍化したように見えるのは、2024 年 3 月期中に実施した値上げ効果が一巡したことによるもので、カープレミアブランドの市場浸透に牽引されて、利益率の高い自社商品が同 30%増と実に堅調に伸びており、プロダクトミックスが改善している。



出所：会社資料「2025 年 3 月期 通期決算説明資料」

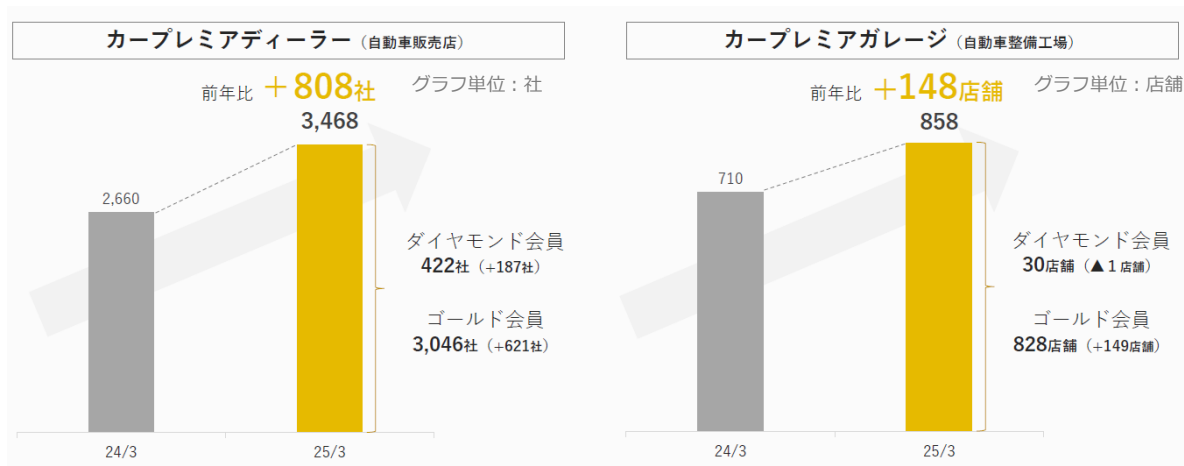
オートモビリティサービス事業

カープレミアクラブを中心とするオートモビリティサービス事業の 2025 年 3 月期業績は、カープレミアクラブの会員数が順調に増加したことで、セグメント営業収益が、全 3 セグメント中最大の伸びとなる前期比 19.6%増の 9,254 百万円となった。自社ブランドであるカープレミアクラブの利益率が高く、同セグメントはカープレミアブランドの伸長によるプロダクトミックス改善効果がもっとも顕著に出た。その結果、営業利益の前期比伸び率は前期比 55.0%の驚異的な伸びとなった。同セグメントの営業収益の伸び 1,519 百万円に対して同営業利益の伸びは 417 百万円であったが、営業利益率で見ると前期の 9.8%から 12.7%へと大幅に改善している。



出所：会社資料「2025 年 3 月期 通期決算説明資料」

オートモビリティサービス事業の基盤はカープレミアクラブであるが、会員数の伸びが顕著である。自動車販売店であるカープレミアディーラーの会員数は前期の 2,660 社から 3,468 社となり 808 社の増加。中でも、会費収入の大きいダイヤモンド会員が 187 社増えて 422 社となり、全体の 1 割を超えた点は見事である。結果、カープレミアあんしんショップも 300 以上に裾野が広がった。整備工場であるカープレミアガレージの会員数は前期比で 148 店舗増の 858 店となり、カープレミアクラブ全体で前期比 956 会員増加の 4,326 会員となり、国内最大のネットワーク構築に向けて順調な様子だ。



出所：会社資料「2025 年 3 月期 通期決算説明資料」



成長のカギとなる DX 戦略

今回のシステム障害発生により、同社のリスク対応力の高さが明確となったが、その一方で同社の DX 戦略における課題も明確になった。今回のリスク対応により、既に「雨降って地固まる」ことには確信できたので、短期的な利益成長や株価についても楽観しているが、長期的な視点で見て課題が浮き彫りになった点が頼もしい。

同社は、経済産業省と東京証券取引所、独立行政法人情報処理推進機構が共同で選出する「デジタルトランスフォーメーション銘柄（DX 銘柄）2025」（以下「DX 銘柄」）に選定された。同社は、来年の 26 年 3 月期決算発表後に次期中期経営計画を発表する予定であるが、今期中に策定されるこの次期中期経営計画において、来る WEB3.0 の時代に向けて同社の DX 戦略がどれだけ具体的になっているか目が離せない。

経営指標

財務データ 連結：四半期毎(百万円)

決算期	FY03/ 2021	FY03/ 2022	FY03/ 2023	FY03/ 2024	FY03/2025				
					Q1	Q2	Q3	Q4	通期
営業収益	17,825	20,827	25,465	31,546	8,674	9,418	9,337	8,980	36,409
前年比(%)	+27.2%	+16.8%	+22.3%	+23.9%	+19.9%	+20.4%	+17.9%	+4.8%	+15.4%
税引前利益	3,463	4,017	5,344	6,241	1,876	2,200	1,972	803	6,851
前年比(%)	+33.0%	+16.0%	+33.0%	+16.8%	+33.2%	+55.4%	+20.9%	-55.0%	+9.8%
税引前利益率(%)	19.42%	19.3%	21.0%	19.8%	21.6%	23.4%	21.1%	8.9%	18.8%
純利益	2,393	2,964	4,003	4,617	1,276	1,496	1,340	536	4,648
前年比(%)	+64.8%	+23.9%	+37.1%	+15.3%	+18.7%	+50.3%	+17.3%	-61.9%	+0.7%
純利益率(%)	13.4%	14.2%	15.7%	14.6%	14.7%	15.9%	14.4%	6.0%	12.8%

出所：会社有価証券報告書を基に Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入、Global IR, Inc.の計算による。

FY03/2022 Q1 に PL 営業利益区分新設に伴い、「営業収益」及び「営業費用」は一部組替修正した金額（過去分含む）を記載。

FY03/2023 Q2 に、タイの持分法適用関連会社である Eastern Commercial Leasing p.l.c の過年度減損損失の約 8.7 億円の戻入により、税引前利益と純利益が増加。

FY03/2024 Q1 に会計方針の変更に伴い「営業収益」の計上方法を変更。（FY03/2022 以前は変更前の実績を記載）

一株当たりデータ(連結)

決算期	FY 03/2021	FY 03/2022	FY 03/2023	FY 03/2024	FY 03/2025
発行済株式総数(千株)	13,334	13,395	40,328	40,471	40,540
EPS	186.74	229.39	103.17	119.39	122.61
EPS 調整後	184.55	227.36	102.50	118.89	121.99
BPS	546.78	732.66	342.54	404.11	497.57
DPS	46.08	51.08	21.05	27.85	40.07

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入*Global IR, Inc.の計算による。

2022 年 9 月 1 日付で普通株式 1 株につき 3 株の割合にて株式分割を実施した。現在の有価証券報告書では 1 株当たりの指標は FY03/2020 の期初に当該の株式分割を実施したと仮定した数値が記載されているため、各期における発行済み株式総数に基づいて算出している本表とは差異がある。（FY03/2022 以前は変更前の実績を記載）

FY03/2024 Q1 に会計方針の変更に伴い「営業収益」の計上方法を変更。

キャッシュフロー(百万円)

決算期	FY 03/2021	FY 03/2022	FY 03/2023	FY 03/2024	FY 03/2025
減価償却費	1316	1,294	1,419	1,640	1,854
営業活動によるキャッシュフロー	1,321	1,608	-449	2,489	-7,761
投資活動によるキャッシュフロー	-1,172	-1,028	-2,320	-3,093	-2,456
財務活動によるキャッシュフロー	1,617	2,797	6,181	6,892	6,220

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入*Global IR, Inc.の計算による。

財務データ(%)

決算期	FY 03/2021	FY 03/2022	FY 03/2023	FY 03/2024	FY 03/2025
総資産利益率(ROA)	3.5%	3.6%	3.9%	3.7%	2.5%
自己資本利益率(ROE)	33.0%	30.3%	30.0%	30.1%	24.6%
自己資本比率	10.6%	11.9%	13.1%	12.2%	10.2%

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入*Global IR, Inc.の計算による。

FY03/2024 Q1 に会計方針の変更に伴い「営業収益」の計上方法を変更。

免責事項

本レポートは、掲載企業のご依頼により Global IR, Inc.が作成したものです。

本レポートは、情報提供のみを目的としており、当該企業株式への投資勧誘や推奨を意図したものではありません。

本レポートに記載されている情報及び見解は、Global IR, Inc.が信頼できると判断した情報源から得、または公表されたデータに基づいて作成したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。しかしながら、正確性、客観性を重視した分析を心がけ、最終的な中立性・独立性には最善の注意を払っています。また、当該企業経営者等とのディスカッション、および独自のリサーチに基づき、我々が投資家にとって重要と思われる視点を Global IR, Inc.のオリジナル・オピニオンとして提供しています。Global IR, Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。当該企業株式への最終的投資判断はあくまでも自己の判断・責任でお願いいたします。